

国、県の補助金確保のため 更なる努力を



田中照男 議員

田中 町長は、日本経済の動向が揺れ動く中、国・県の交付金、補助金に依存する本町の財政状況のもとで、地方財源の確保に全力を注ぎたいと言っておられるが、東日本大震災、福島原発事

故、中部地方に上陸した台風被害等、大惨事が起き復旧復興のため増税を考へなければならぬ事態になっていきます。また、本町の歳入予算は依存財源である地方交付金、国・県の支出金、地方債の割合が年々多くなっており、事業を行う際には国・県の交付金、補助金に頼らなければならぬのが現状です。そこで、事業を行う際には国・県の交付金、補助金の確保は努力なしで得ることができなれないと思えます。どう対応されているのか。

出金等の確保については、算定の基礎があり、地方の実情に応じて交付税が交付されています。町村会又は全国町村会等々を通じ国へ要望をあげています。町の事業についても国・県に事業の展開とともに財源確保に尽くしています。

田中 予算編成の中で自主財源である地方税の確保は最重要です。年々減少しつつある町税を増加させる方策をとるべきであるが、自主財源を増額させる手だてはどうか考えているのか。

町長 収入をいかに上げていくかは、近々の課題です。所得向上のため色々な販売戦略を作り、農業、商工業、皆さん方が所得を確保するための取り組みを始めたところですが、一方、税金の滞納額が年々増えつつあり、徴収活動にも力を入れています。

町長 人口対策はしっかりと手を打っていかねければならないと認識しています。人口を増やすという方法も一つですが、他所に流出をしない、流出人口を減らすという工夫も必要だと思います。そのためには、基幹産業である農業、商業を力強いものにし、後継者が残れる体制を取りたいと考えています。

人口を増やす対策が急がれる



役場庁舎

田中 若者定住対策の強化や中心市街地再整備計画、農業生産基盤の強化を核として、地域振興などをを行い、少子高齢化社会に備えを加速させる必要があります。一方、深刻な問題が高齢化です。65歳以上の人口割合は

29・7%で、合併当時と比べると2・8%上昇している。反面、15歳から64歳までの生産人口は合併当時から647人減り、人口割合も60・4%から58・6%へと下がりました。高齢者世代の増加で介護や医療など社会

保障費の負担増が避けられない一方で、働く世代の減少は社会保障の担い手の先細りで、氷川町経済の成長低下の要因です。今後、財政運営も厳しくなる恐れがあり、こうした人口構成の変化は、危機的な状態と認識すべきです。そこで、人口を増やすための施策どう考えていますか。

町長 環境や福祉の面でこの地域より氷川町はいいなあと思える施策を展開することが、結果として流入人口を増やすことになると思います。高齢者の方々が生き生きと暮らせる町にし、少子化の時代、子育て支援のみならず本町に住みたいといえる環境をつくりあげる必要があります。

町長 ハード面では、道路の整備や上下水道の整備、土地利用など、条件整備をすることが人口増につながるものと思っています。そういった条件を整えていくのが私共の仕事であると考えています。

インターの維持管理の負担 宇城市との協議はどうなっている



江寄 悟 議員

江寄 インター建設について地元説明会が行われていますが、地元の意見はどの様なものでしたか。また、藤本町長関係の用地に関して選定の見直しはされましたか。

宇城市と維持管理の負担割合及びインターの名称はどのようになっていますか。

道路の線形見直し 考えていない

総務振興課長

吉野地区の区長・高塚地区の各種団体長及び高塚住民の方々に説明を行いました。直接的に反対の意見は出ていません。

道路の線形を決めたが、そこにたまたま町長関係の土地があったという事です。道路の線形見直しは考えていません。

江寄 橋梁部の路線見直しの時、既に藤本町長関係の用地が8筆入るとい

うことが分かっていました。少し路線を替えて、町長の土地が対象にならないよう指示をしたか。

町長 私と私の関係者の土地が8筆あるというのとは間違いありません。用地測量でこれから確定していきますが、私の土地を避けて通るような線形を選べという指示はしていません。



インター建設予定地

管理の負担割合については現在協議中です。基本的な考え方は属地进行します。(属地・土地を所属する市町で責任を負う)

江寄 用地買収については、来年2月頃からと考えています。また、供用開始については当初予定より遅れています。26年度を目標に進めていきたいと考えています。

江寄 地元説明会で用地提供者の方から通らないでくれという話は無かったですか。

町長 藤本町長が、自分の土地を買うことになるかと痛むのではないかと。路線を少し替えて

町長 後世への負担を考へての意見ですので、交渉テーブルの上で話したいと思っています。

ゴミ処理場等の見直しは 八代市への回答はどうしたか

江寄 ゴミ処理場及び終末処理場の現状と将来見通しを。また、氷川町・八代市・生活環境の3者協議の経過と八代市への回答はどうされたか。

町民環境課長 焼却能力は1日当たり44tです。現在の処理量は1日43・9tです。最終処分場は、平成30年度に満杯になる予定です。

町長 我が家で出るゴミが基本と処理すること、私が家で処理すること、氷川町だけで1日10tのゴミを処理する試算は出ていますか。



ゴミ処理場の全影



住宅が建ちそろった町分譲地